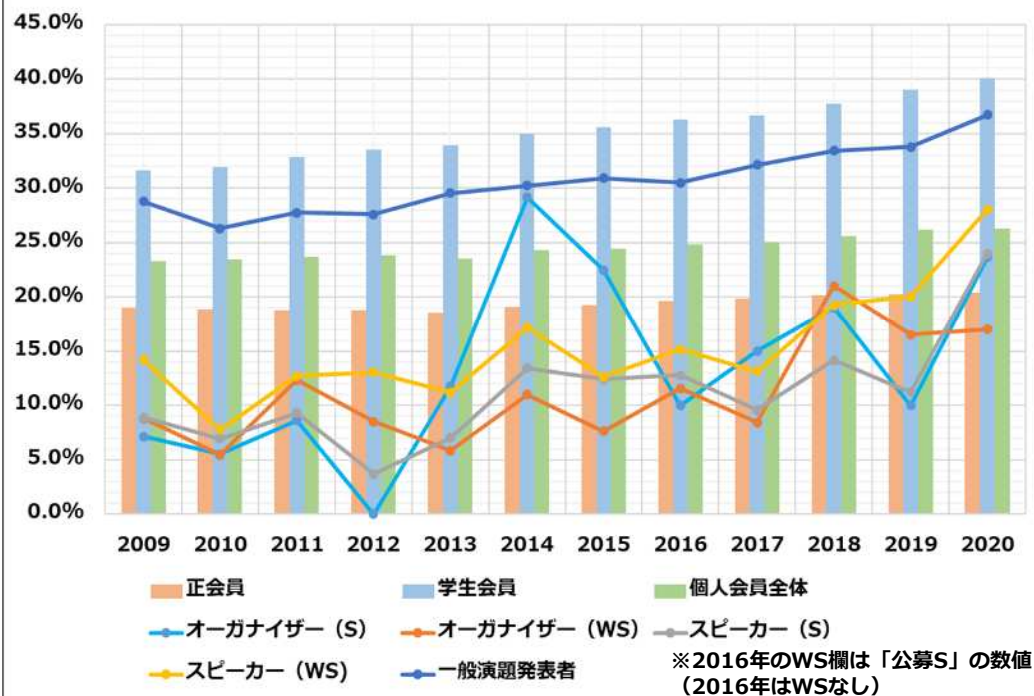


バランスの取れた研究環境を築くために —属性調査の10年—

日本分子生物学会 年会における属性調査（女性比率の推移）



属性調査とは？

研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ（可視性）を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会会員における男女比率との近似値になることが望ましい。

「シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないだろうか」という疑問をもとに、年会発表者が属する性（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。

発表者が決まるプロセスの違い

●シンポジウム (S)

オーガナイザー：年会側が検討・依頼（他薦）

スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

●ワークショップ (WS)

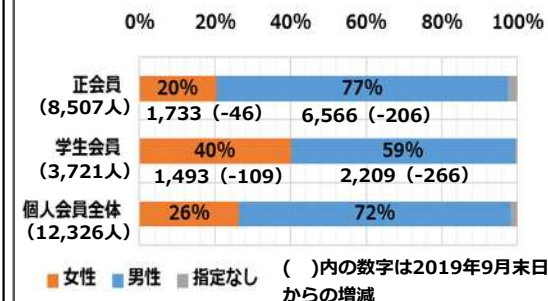
オーガナイザー：応募者（自薦）の中から選抜される

スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

●一般演題発表者

自発的な申し込み（自薦）

日本分子生物学会の男女比率（2020年10月末日現在）



第43回年会（MBSJ2020 Online）ではワークショップ企画公募の際、オーガナイザーやスピーカーに女性研究者が複数含まれている企画を特に優先して採択する旨が募集要項に明示された。ワークショップスピーカーの女性比率は調査開始以来最高となっている。またシンポジウムオーガナイザー及びスピーカーの女性比率も、正会員の比率を上回る結果となっている。

他方、ここではデータを示していないが、2020年は一般演題の全体の投稿数が例年の約半数となり、主な一般演題発表者である学生会員の数も男女共に減少している状況である。一般演題の女性比率としては微増を続ける結果となったが、COVID-19が学生・若手研究者の研究活動に及ぼす影響には今後も引き続き注視する必要がある。



年会発表者の皆様、演題要旨投稿時の属性調査にご協力いただき、ありがとうございました。これまでの属性調査結果まとめは学会HPでご覧いただけます。



The 43rd

Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan

